

2019年度当初予算要望活動を実施!



香川県教職員連盟機関連誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行者: 安本 薫

〒760-0004
高松市西宝町2丁目4番60号
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

http://www.kakyoren.com/
E-mail: info@kakyoren.com
毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料とも)
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十四年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

より質の高い教育を提供していくために 教育環境の整備や改善を要望!

県教育委員会へ



香教連は、十一月十五日(水)十四時から、県庁北館四階四〇二会議室において、香川県教育委員会との予算要望を行った。香教連から安本薫委員長、相原順之介事務局次長、山田昭広執行委員、北村頭吾事務局長の四名が出席した。県教委側は工代祐司教育長、小柳和代義務教育課課長ほか、十一名が対応してくださった。

主要要望内容は、「質の高い英語教育の実現のための英語専科担当教員の配置や英語教育充実のための小中学校連携事業の取組をさらによりよいものに充実させていくための体制づくり」「部活動指導員配置の促進」「スクールサポートスタッフの増配置」「指導教諭を核とした校内指導体制の充実」「通級指導教室の像配置」「ICTによる業務の効率化を図るとともに、指導要録の電子化等を含め、県下で共通化された業務に取り組みことができるようにするための環境整備」等である。

現場の勤務実態や「教職員働き方改革プラン」の内容も踏まえ、香川の子供たちのために教職員が職務に専念できるように要望した。

県知事へ



十月三十日(火)十一時五分より、香川県庁第一応接室において、浜田恵造・香川県知事に対して、文教予算の確保に関する要望を行った。

香川県の先生方の現状を伝えるとともに、先行実施されている小学校英語の指導体制やするーるサポートスタッフの増配置、県下で共通化されたICT活用による校務支援システムの導入等について要望した。

県議会へ



十月三十日(火)十一時三十分より香川県議会二階議長応接室において、香川県小・中学校管理職員協議会と合同で、花崎光弘・香川県議会議長に対して文教予算の確保に関する要望を行った。県議会からは、花崎議長のほか、三野康祐副議長、高城宗幸文教厚生委員長が出席された。

はじめに香菅協・武智直会長から、次いで香教連・安本薫委員長からそれぞれ要望書と、香教連からは署名簿も手渡した。香川子供たちにさらに質の高い教育が提供できるよう要望した。

国(各関係省庁)へ



全日教連を通じて、十一月七日(水)に総務省・警察庁へ「文教関係施策及び関連予算に関する要望」を行った。

香教連からは北村頭吾事務局長が出席し、「教職員の働き方改革」に関する現状や、教員不足の深刻化等について話し、文教予算の拡充を強く訴えた。

主な内容は、「基礎定数及び加配定数の充実による教職員の計画的、安定的な配置に必要な予算措置」「児童相談所の強化プランの推進と学校との連携体制の充実」「未成年者が使用する携帯型情報端末に対するフィルタリング完全義務化等を含めた更なる規制の強化」「登下校時の安全確保や虐待等、複雑化、多様化する子供や家庭の問題に対応する体制づくり」等について要望した。

国会議員へ



十一月五日(月)六日には、国会議員の方々に対して「文教関係施策及び関連予算に関する要望」を行った。

香教連からは、北村頭吾事務局長、原井和彦全日教連事務局次長が出席した。香川県選出の国会議員を中心に、香川県の教育現場の現状を伝えるとともに、教職員の働き方改革についても意見交換させていただいた。

その中で、平井卓也IT担当大臣からは、働き方改革(業務の効率化)の一つの具体策として、都道府県単位で共通化した校務支援システムの早期導入を図ることで業務の効率化・軽減が推進していただけるのではないかと提言いただいた。

香川県の子どもたちや先生方のためにも、引き続き働きかけていく。



本年度、隣接する中学校の部活動指導のお手伝いをしていく。サッカー部の顧問が人事異動となり、専門的な指導がなかなか難しいというところもあり依頼があった。休日は外部から指導員が来て下さっている。平日のみの指導だが、生徒達の部活動に真摯に取り組む姿に非常にやりがいを感じている。生徒達にとって部活動は中学校生活の中で大きな比重を占めている。仲間との絆、先輩・後輩との関係、やり遂げた時の感動や達成感等、教育的意義も大きく、教職員にとっても生徒と繋がる大切な活動であり、成長する姿を間近で見ることが出来るものである。その一方で部活動に負担を感じている教員も少なくない。自分の専門外の競技を指導することや休日の指導等による長時間の勤務が主な要因である。確かに時間的な拘束も多くあるので、考えていかなければならないことだと思ふ。国では部活動指導員の配置促進に努めることとされているが、計画されているが、本県においてはまだまだ少ない現状である。生徒達にとっても教職員にとっても大切な部活動がより良いものとなるように、これからもみなさんの声を届けていきたい。(薫)